



はりきっていっしょうけんめいやって、へこたれない子

早いもので、新年度の歩みも2ヶ月が過ぎようとしています。園庭の枇杷も順調に育っています。私はカラスの皆様のご馳走になる前に、やはり袋かけをしなければと思い始めています。子どもたちも新しい生活になれて、楽しそうな会話だけでなく、主張し合うやり取りも増えてきました。これまでは、やけに聞き分けのよかった、たんぼぼ組の子どもたちも、次第に本領を発揮し始めています。幼稚園が荒れてきた？わけではありません。子どもたちが幼稚園という場所を自分たちの“居場所”と感じ、一緒に生活する人たちを“仲間”と感じ始めているからこそ、そんな事があちらこちらで見られるようになってきたのです。幼稚園が『安心』できる所になったので、だんだん素の私を見せられるようになってきた、ということです。これってホントに大事なことなのです。まずは安心して自分らしく居られなかったら、幼稚園は明日も来たいと思う所にはなりません。子どもたちが安心すると、ここが“わたしのようちえん”になり、“毎日行きたい所”になって、“楽しい場所”“好きな場所”になる。そこから始まる園生活です。楽しくて明日も来たい幼稚園だから、そこで起る様々な出来事に向き合うことができ、困難なこともちょっと頑張ってみようとする姿になる。そんな風にして子どもたちは少しずつ自立（自分以外の物の助けなしで、または支配を受けずに自分の力で物事をやっていくこと）し、自律（自分のきままを押さえ、または自分で立てた規範に従って、自分で考え、行動すること）に向かいながら、仲間と力を合わせて幼稚園での生活を主体的に作るひとり一人になっていくのです。

さて前置きが長くなっていますが、愛隣の保育目標を語る第2弾は「はりきっていっしょうけんめいやって、へこたれない子」です。さて、どんな子ども像が浮かんでくるでしょうか。積極的に何にでも取り組む姿。失敗してもあきらめずに挑戦する姿。簡単にはできないと思われることにも一歩を踏み出そうとする姿。きっと生き生きとして力に溢れる子どもの姿が浮かんでくるのではないのでしょうか。と同時に、そこには未来に向かって生きる子どもたちの力強い歩みも感じないのでしょうか。「今」という時を一生懸命生きている子どもたちは、『オレ（わたし）、だいじょうぶ！』という自信をもって「未来」を歩んでいくことができる。この目標に表される子ども像を思い描くと、そんな確信が湧いてきたりするのです。この目標は約30年前に改定され現在のものになったのですが、当時の資料にはこの目標の説明が以下のように書かれていました。「一生懸命やってへこたれない子とは、“自立”の心を持ち、“自律”の力を持った子という意味です。」そうなんです。今回の園だよりの長い前置きに戻ります。「はりきっていっしょうけんめいやって、へこたれない子」になるためには、何よりも『安心』が必要です。他者の支配、従属から離れ、自分で自分のことが出来るようになる（自立）ために必要なものは『安心』です。『訓練』ではありません。安心できない環境でトイレトレーニングが成立しないのと同じです。子どもたちは安心して初めて、自ら依存する対象を離れ、自分の足で歩き始めます。自分で歩き始めれば、うまくいかないことにもたくさん出会います。挫けてしまいそうにもなります。その時に自分を励まし、困難に向かわせる力、意欲、思考し行動する、“自律”の力が必要になります。そして、その力を育み支えるのが「あなたはいい！」という『承認』であり、「自分はいいい！」「私は大丈夫！」という『自己肯定感』なのです。幼児教育の役割は子どもたちに『安心』した園生活を保障し『自己肯定感』を育むところにあるのです。

アメフトのゲームで反則を犯した選手が、真摯に謝罪し真実を語る姿を見ました。親御さんの取材記事も見ました。お父様は仕事を休み彼と一緒にこのことに向き合ってくださいましたようです。どんな君も私の息子と、彼を支える家族があったからこそ、過ちに向き合い行動することができたように思います。彼は間違いを犯しましたが、未来に向かって歩いていける気がします。